

元総社蒼海遺跡群（7）

前橋市元総社公民館新築移転工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6 • 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（7）

前橋市元総社公民館新築移転工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6 • 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



調査区全景　推定国庁域を望む（北東から）



調査区全景（南から）



W-1号溝全景（西から）



W-1号溝 カマド構築材探査検出状況（南から）

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。その悠久と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など「クニ」の中核施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずつた地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸によって、横浜と前橋が結ばれまさに「シルクロード」として文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うものですが、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の皆さま、生涯学習課、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さまに厚く御礼申し上げます。なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　根岸　雅

例 言

1. 本報告書は、前橋市元總社公民館新築移転工事事業に伴う元總社遺跡群（7）発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 群馬県前橋市總社町3589番地

発掘調査期間 平成17年11月10日～平成17年12月19日

整理・報告書作成期間 平成17年12月20日～平成18年3月23日

発掘・整理担当者 梅澤克典・井上 登（発掘調査係員）

4. 本書の原稿執筆・編集は梅澤・井上が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

石原義夫・岩木 操・大澤俊夫・岸フクエ・齊藤亜寿・須田博治・高澤京子・角田 恒・寺山善孝・

渡本秋子・中澤光江・平林しのぶ・星野和子・湯浅たま江・湯浅道子

6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 拝団中に使用した北は、座標北である。

2. 拝団に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋）、1/2,500前橋市現形図を使用した。

3. 遺跡の略称は、次のとおりである。・元總社蒼海遺跡群（7）：17A130-13

4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 W…溝跡 D…土坑

P…ピット・貯蔵穴（住居内P5を貯蔵穴とした。）

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 住居跡・溝跡・土坑・ピット…1/60 電断面図…1/30

全体図…1/200

遺物 土器・鉄製品…1/1、1/3、1/4 石器・石製品…1/1、1/3、2/3、1/4、1/5 瓦…1/5

6. 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。

7. スクリントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図 構築面…

遺物実測図 頸壺器断面… 灰釉・綠釉陶器断面… 灰釉陶器内面…

8. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名ニッ岳浜川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉)

目 次

はじめに	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	9
V 遺構と遺物	
1 厚穴住居跡	10
2 溝跡	10
3 土坑	11
4 グリッド等出土遺物	11
VI まとめ	
1 厚穴住居について	14
2 古代の大溝について	14
3 中世の溝跡について	15
引用参考文献	16

挿 図

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図
2 周辺遺跡図
3 元総社蒼海遺跡群（7）位置図とグリッド設定図
4 元総社蒼海遺跡群（7）基本層序
5 元総社蒼海遺跡群（7）全体図
6 H-1、2号住居・W-3号溝
7 W-2号溝
8 W-1号溝
9 W-4～6号溝
10 D-1、2号土坑
11 H-1号住居・W-1、2号溝出土の土器
12 W-3、4号溝出土の土器 および調査区出土の縄文土器・土製品・石器・鉄器

図 版

- 図絵1 調査区全景 推定国庁城を望む（北東から）
2 調査区全景（南から）
3 W-1号溝全景（西から）
4 W-1号溝 カマド構築材探掘痕検出状況（南から）
PL. 1 調査区全景、H-1・2号住居、D-1・2号土坑
2 W-1号溝
3 W-2～6号溝
4 H-1・2号住居、W-1・3・4号溝および調査区出土の土器
5 土製品、石器・石製品、鉄器

表

- Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2 穴穴住居跡計測表
3 住居カマド計測表
4 溝跡計測表
5 土坑計測表
6 土器観察表
7 石器・石製品観察表
8 土製品観察表
9 鉄器観察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市元総社公民館新築移転工事事業に伴い実施され、初年度にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成17年10月11日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成17年11月8日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、11月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（7）」（遺跡コード：17A130-13）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(7)」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畑地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約2kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南へ約0.5kmの所に上野国総社神社があり、西方約1kmには関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

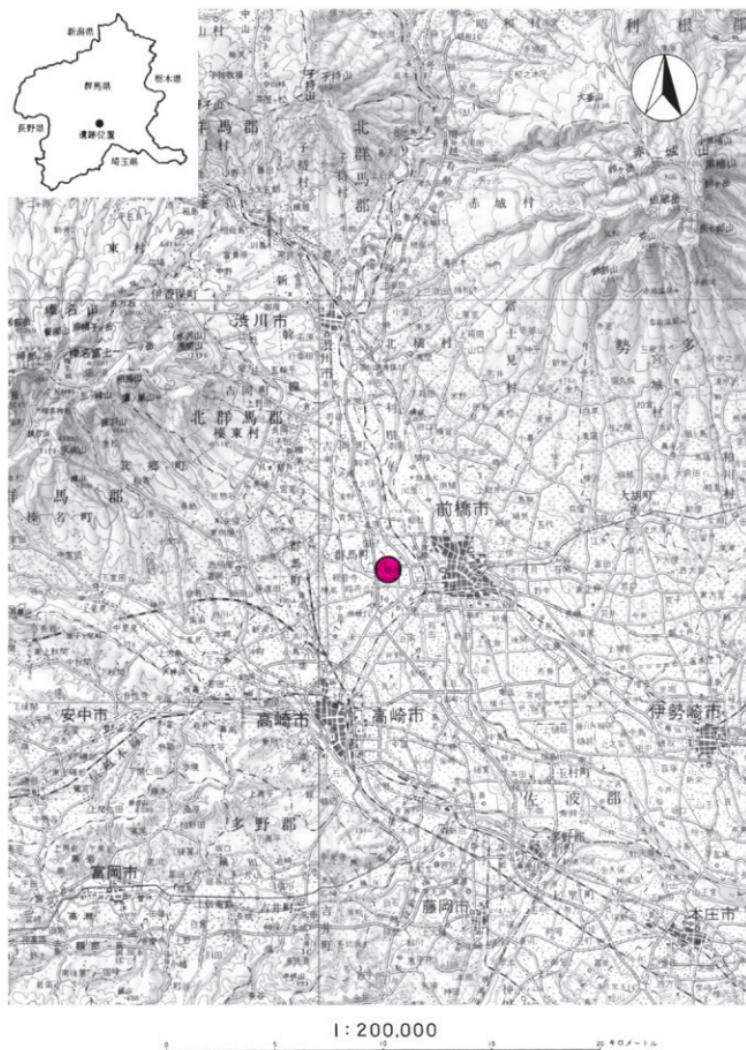


Fig. 1 元總社舊海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のうちに北に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の總社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる王山庵跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鰐尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元總社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元總社小見内III遺跡や元總社小見内IV遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帶具)も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の網張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの網張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

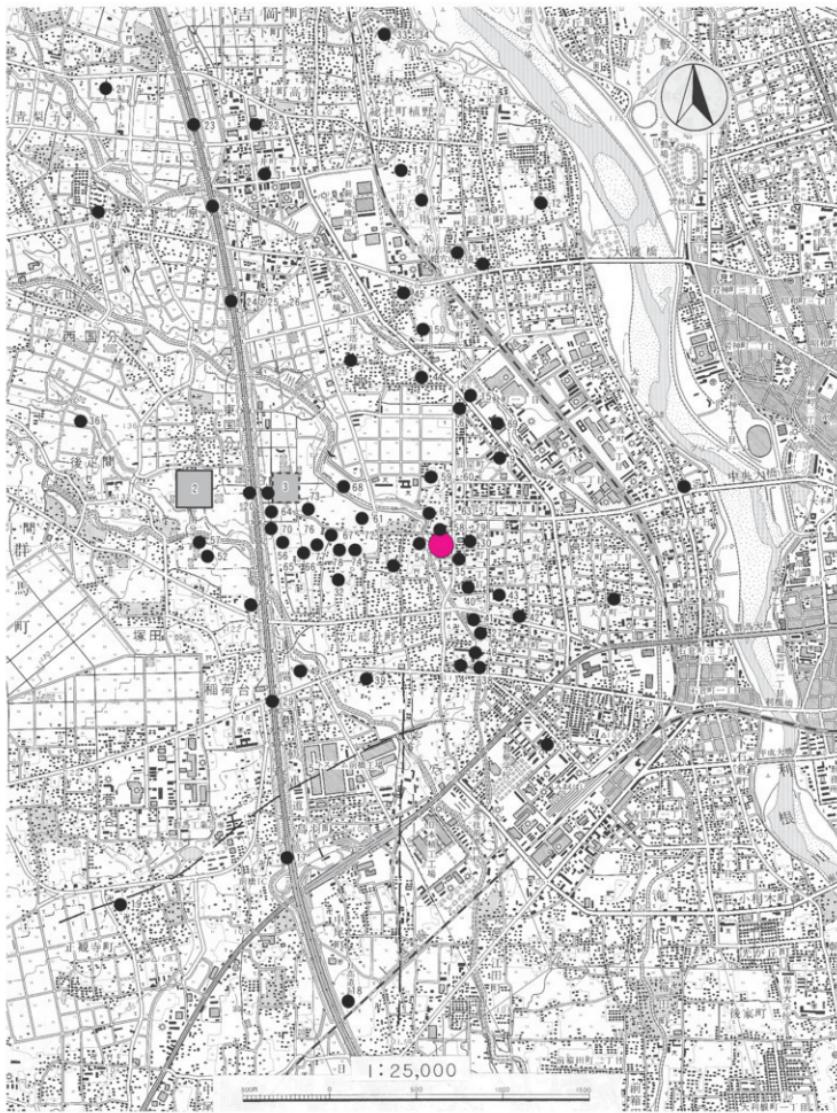


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な構造・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王庵寺跡	(1974)	古墳；塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳；前方後円墳（6 C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳；方墳（8 C初）
9	福荷山古墳	1988	古墳；円墳（6 C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳；円墳（7 C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳；前方後円墳（6 C末～7 C初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳；前方後円墳（5 C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳；方墳（7 C末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
15	産業道路東遺跡	1966	繩文：住居跡
16	産業道路西遺跡		繩文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具・平安：条里制水田跡
19	正願寺遺跡 I～IV（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡・古墳；住居跡、奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地城（事業団）	1980～83	繩文：住居跡・配石造構・弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳；住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状造構・道路状造構
21	清里南部遺跡群・III	1980	繩文：ピット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	繩文：屋外埋甕・弥生：住居跡・古墳；住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵跡・中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡
25	国分境II遺跡	1991	古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡
26	国分境III遺跡（群馬町）	1991	古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・中世：土塙墓
27	元総社明神遺跡 I～XIII	1982～96	古墳；住居跡・水田跡・堀跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形・中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
28	北原遺跡（群馬町）	1982	繩文：土坑・集石造構・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
29	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・礎場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神照跡）
30	開原橋遺跡	1983	奈良・平安：溝路（上幅6.5～7 m、下幅3.24 m、深さ2 m）
31	柿木遺跡・II遺跡	1983, 88	奈良・平安：住居跡・溝跡
32	草作遺跡	1984	古墳；住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
33	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
34	總社桜ヶ丘遺跡・II遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
35	開原橋南遺跡	1985	古墳；住居跡・奈良・平安：溝跡
36	後丸間遺跡 I～III（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状造構
37	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
38	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
39	天神遺跡・II遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
40	星敷遺跡・II遺跡	1986, 95	古墳；住居跡・平安：住居跡・中世：掘跡・石敷道構
41	大友星敷II・III遺跡	1987	古墳；住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
42	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
43	堀越II遺跡	1988	平安：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な構造・出土遺物
44	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
45	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
46	熊野谷遺跡	1988	繩文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
47	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡
48	元絶社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・着串・墨書き土器、中世：溝跡
49	弥勒遺跡・II遺跡	1989, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡
50	大星敷遺跡I～VI	1992～2000	繩文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下水坑・溝跡
51	元絶社細葉遺跡	1993	繩文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
52	上野園分寺參道遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
53	大友宅地添遺跡	1999	平安：水田跡
54	總社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：墓跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
55	元絶社宅地遺跡I～23トレンド	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鐵冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・楓類
56	元絶社小見遺跡	2000	繩文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
57	元絶社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・墓跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
58	總社閑泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
59	元絶社甲種荷緑大通西II遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：墓跡、近世：溝跡
60	總社甲種荷緑大通西II遺跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
61	元絶社小見内II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
62	總社甲種荷緑大通西III遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・溝跡
63	總社閑泉明神北II遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
64	元絶社小見日遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
65	元絶社小見III遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
66	元絶社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
67	元絶社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壤墓・掘立柱建物跡・溝跡
68	元絶社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
69	福蔵塚東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竪構築材採掘痕・井戸跡
70	元絶社小見IV遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
71	元絶社小見V遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
72	元絶社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
73	元絶社小見内VII遺跡	2003	繩文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：墓跡・溝跡
74	元絶社小見内VIII遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：堅穴状遺構
75	總社甲種荷緑大通西IV遺跡	2003	古墳：墓跡、中世：墓跡
76	元絶社小見VII遺跡	2004	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
77	元絶社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
78	元絶社小見内X遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探鉢坑・金片・金粒、中世：溝跡・土壤墓
79	總社閑泉明神北V遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡

*調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。

*遺跡名の欄の（事業団）は神群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査の方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋市元総社公民館新築移転工事事業の公民館新築移転予定地で、調査面積は約816m²である。グリッド座標については、2000年の上野国分尼寺寺域確認調査から用いている4mピッチのものを継続して使用し、西から東へX270、X271、X272…、北から南へY144、Y145、Y146…となる。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

公共座標については、以下のとおりである。

- ・元総社蒼海遺跡群（7）測点 X274・Y148

旧日本測地系 X = +43408.000 Y = -71104.000

世界測地系 X = +43762.905 Y = -71395.766

検出が予想される主な遺構は奈良・平安期の住居跡および古代の溝等であり、調査は、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘り下げ・遺構精査・測量・全景写真撮影の順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡カマドは1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成17年11月8日に委託業務契約を締結、11月10日より現地調査を開始した。11月10日から14日にかけて表土掘削を行い、それと平行して鷺籠による遺構確認を行った。その際に2条の大溝跡を確認した。2条とも遺構確認面からの深さが1mを越えることが予想されたため、安全対策には十分留意しながら調査を行うこととした。11月15日に方眼杭打ちとベンチマークの設定を行った。その後の遺構掘り下げ・精査の結果、堅穴住居2軒、溝跡6条、土坑2基が検出された。11月29日・30日にラジコンヘリによる調査区全景空中撮影を行った。12月1日からは現場事務所において土器洗いや図面整理などを行った。

なお、12月1日より14日までの2週間、本遺跡の調査で検出された古代の大溝について、現地にて関係各位への説明を行った。12月1日には、本事業の依頼課である生涯学習課が訪れ、その後も教育委員会関係者や文化財調査委員各氏、および県教育委員会や県埋蔵文化財調査事業団の方々が現場に訪れ、随時、現場説明を行った。

12月15日から19日にかけて埋め戻しを行い、現地での作業は終了となった。

12月20日より文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成にあたり、翌年3月23日までにすべての作業を終了した。

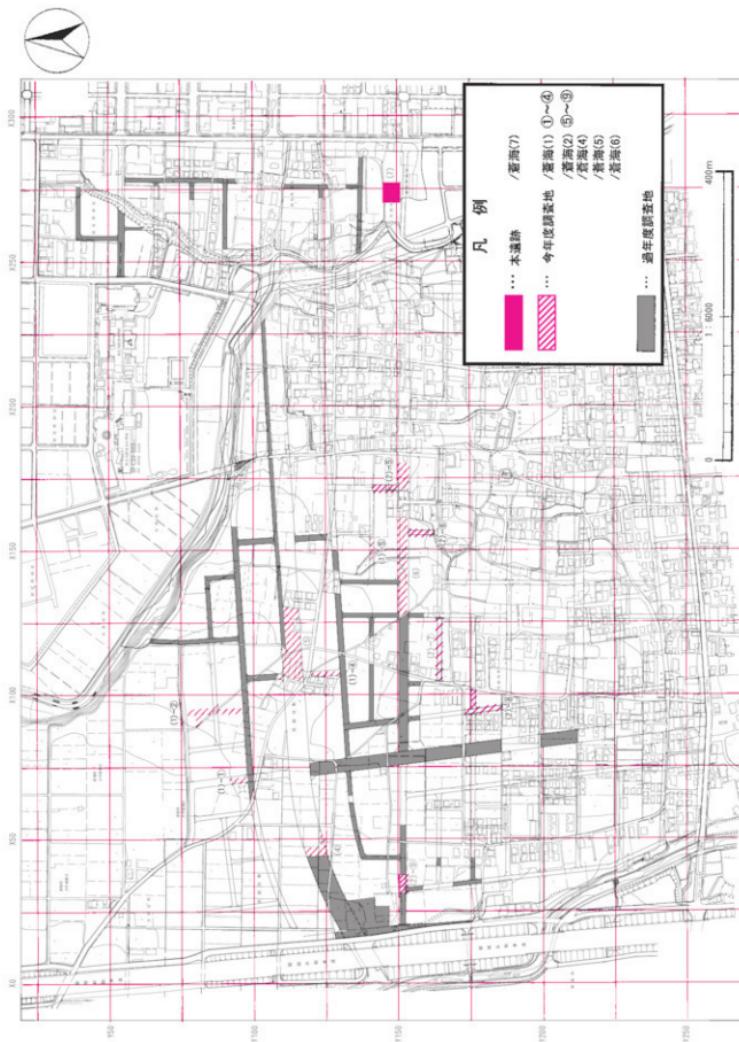


Fig. 3 元総社舟塙道路群（7）位置図とグリッド設定図

IV 基本層序

本遺跡内の基本的な土層堆積状況を柱状図で示した。なお、2号溝以南の総社町総社3589地番は、III層から上位が削平されていたため、柱状図は調査区東壁の2号溝北側側壁部分で作成した。各層の堆積状況は以下のとおりである。

I層 10YR3/2 黒褐 表土層。現耕作土層でAs-Bを含みやや砂質。Ib層は2号溝上位に認められ。一部に硬化部分が認められる。

II層 2.5Y3/1 黒褐 As-Bを主体とする砂質土層。

III層 As-Cを主体的に含む層を一括したが、含有物、土質により2層に分けられ、上位からa、b層とした。

IIIa層 10YR3/2 黒褐 As-C粒の他、Hr-FP、Hr-FA粒が混在するが、攪拌されプライマリーな堆積は認められない。古墳～奈良・平安時代の遺物を含む。

IIIb層 10YR1.7/1 黒 As-C粒を20～30%含む。古墳～奈良・平安時代の遺構確認面。

IV層：黒ボク土層。色調により上下に2分でき、上位からa、b層とした。

IVa層 10YR3/3 暗褐 粒径2～5mm。黄色味を帯び色調明るい。縄文時代前期以降の遺物を包含する。

IVb層 10YR3/1 黒褐 粒径2～5mm。やや砂質。5mm大の白色・橙色微粒を5%含む。色調が暗い。

V層 10YR3/3.5 暗褐 IV層黒ボク土とVI層総社砂層上層との漸移変化層。

VI層 10YR4/3 にぶい黄褐 総社砂層上層の黄褐色砂質土層。5～15mmの大さな小礫を5%含む。2～4mmの大さの凝灰質砂岩円礫をごくわずか含む。

VII層 10YR5/6 黄褐 総社砂層上層の硬質砂層。非常に堅くしまる。

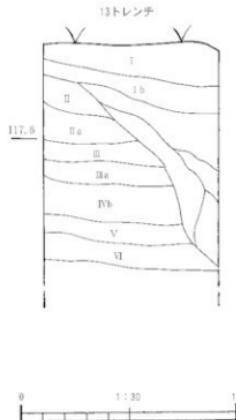


Fig. 4 元總社蒼海遺跡群（7）基本層序

V 遺構と遺物

1 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 6・11・12、PL. 1・4・5)

位置 X276-277、Y149-150グリッド 主軸方向 N-80°-E 規模 東西3.66m、南北3.25m、壁現高21.0cm、面積 11.54m² カマド 東壁南東寄りに位置する。主軸方向 N-88°-E。全長106cm、最大幅66cm、燃焼部幅44cm、焚口部幅42cm。周溝 不明。貯藏穴 長径42cm、短径36cm、深さ20cmの円形。ピット P₇ 長径76cm、短径67cm、深さ14cmの円形。P₈ 長径42cm、短径37cm、深さ25.5cmの円形。重複 なし。出土遺物 総数114点。そのうち土師壺2点、須恵蓋3点、羽口1点を図示。時期 不明。備考 6世紀後半～10世紀までの土器小片が出土。

H-2号住居跡 (Fig. 6・12、PL. 1・4・5)

位置 X276-277、Y150-151グリッド 主軸方向 N-71°-E 規模 東西3.00m、南北1.16m、壁現高22.5cm、面積 1.82m² カマド 不明。周溝 不明。重複 なし。出土遺物 総数94点。そのうち縄文土器1点、耳栓1点を図示。時期 不明。

2 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig. 8・11・12、PL. 2・4・5)

位置 X270～278、Y147～149グリッド 主軸方向 N-86°-E 長さ 30.60m 最大幅 上幅7.60m、下幅4.54m 深さ 206.0cm 形状等 逆台形 重複 W-3・W-6・D-1と重複し、新旧関係はW-6→W-3と不明瞭→D-1の順である。出土遺物 総数270点。そのうち土師質土器1点、須恵壺4点、灰釉陶器椀1点、須恵椀4点、須恵高壺1点、須恵羽釜1点、手捏1点、石鎌1点、刀子2点、棒状鉄製品1点、釘1点を図示。時期 埋土から古代と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig. 7・11・12、PL. 3・4・5)

位置 X270～278、Y145-146グリッド 主軸方向 N-87°-E 長さ 31.96m 最大幅 上幅6.80m、下幅2.76m 深さ 150.0cm 形状等 逆台形 重複 なし。出土遺物 総数2700点。そのうち土師壺1点、須恵椀1点、灰釉陶器椀1点、須恵羽釜1点、砥石1点、石鎌2点、鉄斧1点を図示。時期 埋土から中世と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig. 6・12、PL. 3・4・5)

位置 X271～277、Y149～151グリッド 主軸方向 N-62°-E 長さ 22.40m 最大幅 上幅2.18m、下幅1.38m 深さ 53.5cm 形状等 逆台形 重複 W-1・W-4・W-5・D-1・D-2と重複し、新旧関係はW-5→W-1と不明瞭→W-4→D-1→D-2の順である。出土遺物 総数236点。そのうち土師壺1点、灰釉陶器壺1点、土師甕2点、羽口1点を図示。時期 埋土から古代と考えられる。

W-4号溝跡 (Fig.9・12、PL.3・4・5)

位置 X274・275、Y149～151グリッド 主軸方向 N-189°-E 長さ 5.70m 最大幅 上幅1.56m、下幅1.34m 深さ 47.5cm 形状等 逆台形 重複 W-3・W-5と重複し、新旧関係はW-3→W-5→本造構の順である。 出土遺物 総数90点。そのうち朝顔形埴輪1点、石鐵1点を図示。 時期 埋土から古代と考えられる。

W-5号溝跡 (Fig.9・12、PL.3・5)

位置 X275・276、Y149～151グリッド 主軸方向 北側 N-159°-E、南側 N-247°-E 長さ 8.00m 最大幅 上幅0.60m、下幅0.35m 深さ 21.5cm 形状等 U字形 重複 W-3・W-4と重複し、新旧関係は本造構→W-3→W-4の順である。 出土遺物 総数15点。そのうち石鐵1点を図示。 時期 埋土から古墳時代～古代と考えられる。

W-6号溝跡 (Fig.9、PL.3)

位置 X275・276、Y147・148グリッド 主軸方向 N-246°-E 長さ 7.10m 最大幅 上幅0.90m、下幅0.80m 深さ 59.5cm 形状等 U字形 重複 W-1と重複し、新旧関係は本造構→W-1の順である。 出土遺物 なし。 時期 埋土から古墳時代～古代と考えられる。

3 土 坑

D-1号土坑 (Fig.10、PL.1)

位置 X274、Y149・150グリッド 規模 長径180cm、短径160cm、深さ41cm。 形状等 円形 出土遺物 総数14点。 時期 10世紀以降、As-B降下以前。

D-2号土坑 (Fig.10、PL.1)

位置 X274・275、Y150グリッド 規模 長径144cm、短径1366cm、深さ53cm。 形状等 円形 出土遺物 総数16点。 時期 10世紀以降、As-B降下以前。

4 グリッド等出土遺物

総数251点を検出した。そのうち繩文土器3点、石鐵1点を図示。

18	土御器 手鉢	W-1 下層	①(3.5) ②(3.0) ③ 3.0	①少量の砂を含む。やや黄 色。37.5YR7/4 (4)3/2	斜面丸みをもって内側する。底部: 平底気味。外側・内面: 指紋によるナメ。	W-1 下層一括
19	土御器 片	W-2 覆土	①(12.2) ②(4.4) ③ 6.0	①わずかに砂を含む。良好。 32.5Y5/4 (4)3/2	体部~口縁は内側する。外側: 体部削り削りの後、口縁横ナ メ。内面: 横ナメ後、致突状態。	W-2 覆土一括
20	須恵器 片	W-2 下層	①不明 ②(2.9) ③ 6.0	①わずかに砂を含む。良好。 32.5Y5/4 (4)3/2	体部~口縁は内側する。外側: 体部削り削りの後、口縁横ナ メ。内面: 横ナメ後、致突状態。	W-2 下層一括
21	灰釉陶器 片	W-2 覆土	①(16.0) ②(4.7) ③不明	①良好。②良好。③37YR6/1 ④C3/2	体部~丸みをもつて内側する。底部: 口縁横ナメ。外側: 内面: ロゴロ整形ナメ。底部: 異常。	W-2 覆土一括
22	須恵器 羽輪	W-2 覆土	①(34.0) ②(7.4)	①少量の砂を含む。良好。 316YR2/2 (4)C3/2	体部~丸みをもつて内側する。底部: 口縁横ナメ。外側: 内面: ロゴロ整形ナメ。底部: 不規則。頂部が削れ。	W-2 覆土一括
23	土御器 片	W-3 覆土	①(11.6) ②(3.6)	①少量の砂を含む。良好。 35YR5/4 (4)3/3	体部~口縁部: 少量の砂を含む。良好。外側: 体部削り削りの後、 口縁横ナメ。内面: ロゴロ整形ナメ。	W-3 覆土一括
24	灰釉陶器 片	W-3 覆土	①(13.6) ②(4.9) ③不明	①良好。②良好。③37YR3/1 ④C3/2	体部: ゆるやかに彫曲して立ち上る。外側・内面: ロゴ ロ整形ナメ。底部: 不規則。頂部が削れ。	W-3 覆土一括
25	土御器 葉	W-3 底面	①(24.0) ②(6.4)	①少量の砂を含む。良好。 35YR5/6 (4)C3/2	口縁部: 体部から彫曲して窓的に外反して開く。側面: 球 状立体で立てる。内面: 体部削り削りの後、口縁横ナメ。内面: 内面: 口縁横ナメ。底部: 体部削り削り。	W-3 覆土一括
26	土御器 葉	W-3 覆土	①(15.0) ②(5.6)	①砂粒を多く含むやや粗い。 ②良好。③35YR5/5 (4)C3/2	やや膨らんだ側面から、知く外嘗気味に開く。側面: 口 縁横ナメ。側面: 体部削り削り。内面: 口 縁横ナメ。側面: 体部削り削り。内面: 機ナメ。	W-3 覆土一括
27	朝鮮形彫輪	W-4 覆土	①不明 ②(4.3) ③不明	①少量の砂を含む。良好。 35YR4/6 (4)C3/2	外側: 口縁部から彫曲して窓的に外反して開く。側面: 球 状立体で立てる。内面: 体部削り削りの後、口縁横ナメ。内面: 内面: 口縁横ナメ。底部: 不規則。頂部が削れ。	W-4 覆土一括
28	圓文土器	H-2 覆土	①不明 ②(4.6) ③ 3.7	①白い粘子。骨質を含む。良 好。35YR4/4 (4)底のみ。	底面下は砂粗粒土で押さむ。内面: 口縁横ナメ。外側: 口 縁横ナメの後、機ナメ。円筒: 体部削り削りによるナメ。	H-2 覆土一括
29	圓文土器	表土	①不明 ②不明 ③不明	①白い粘子。骨質を含む。 35YR4/2 (4)C3/2	側面: 体部削り削りの後、機ナメ。底面: 不規則。	表探
30	圓文土器	表土	①不明 ②不明 ③不明	①砂粒であるや砂粒を含ま ない。②良好。37.5YR4/2 ④C3/2	口縁部: 体部削り削りによるナメ。内面: 口縁横ナメ。底 面: 不規則。底面: 口縁部により画された口縁上に斜めの刺突が開け たに一致。	表探
31	圓文土器	X-274, Y-149 IV層	①不明 ②不明 ③不明	①白い粘子をやや多く含む。 35YR4/1 ④C3/2	口縁部: 体部削り削りによるナメ。内面: 口縁横ナメ。底 面: 不規則。底面: 口縁部により画された口縁上に斜めの刺突が開け たに一致。	X-274, Y-149 IV
32	土製品 耳鉢	H-2 覆土	幅3.3 厚1.7	①砂粒を多く含む。②やや良 好。35YR6/2 (4)C3/2	片面大きき抉れる。側面や抉れる。	H-2 覆土一括

Tab.7 元総社蒼海遺跡群（7）13トレンチ出土石器・石製品観察表

番号	器種名	出土通構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備考
1	砥石	W-2 下層	(6.0)	3.8	3.9	73	凝灰岩	不明	W-2 下層一括
2	石鏸	W-1 上層	(2.7)	1.5	0.4	1.4	頁岩	4/5	W-1 上層一括
3	石鏸	W-2 覆土	(2.9)	(1.6)	0.4	1.6	頁岩	5/6	W-2 覆土一括
4	石鏸	W-2 上層	(2.2)	(1.7)	0.4	1.2	頁岩	5/6	W-2 X-272, Y-145
5	石鏸	W-4 覆土	(3.0)	1.8	0.4	1.8	頁岩	5/6	W-4 X-276, Y-146
6	石鏸	W-5 覆土	2.3	1.8	0.4	1.6	頁岩	完形	W-5 覆土一括
7	石鏸	表土	(2.9)	1.8	0.4	2.0	頁岩	ほぼ完形	表土

Tab.8 元総社蒼海遺跡群（7）13トレンチ 土製品観察表

番号	器種名	出土通構／層位	①底面焼成 ②側面焼成 ③底面焼成	器種の特徴・整形・調整技術	備考	
1	土製品 羽輪	H-1 底面	①(9.5) ②(9.1) ③(3.0)	①砂粒を多く含む。②やや良 好。35YR4/2 (4)C3/2	内壁2.3cm。先端部ガラス化するも、あまり溶離は進んで いない。	H-1-31
2	土製品 羽輪	W-3 表土	①(6.2) ②(6.3)	①砂粒を多く含む。②やや良 好。35YR4/2 (4)C3/2	内壁2.3cm。先端部ガラス化するも、あまり溶離は進んで いない。	W-3 覆土一括
3	土製品 羽輪	H-2 表土	②(3.3) ③(1.7)	①砂粒を多く含む。②やや良 好。35YR4/2 (4)C3/2	片面大きき抉れる。側面や抉れる。	H-2 覆土一括

Tab.9 元総社蒼海遺跡群（7）13トレンチ 出土鉄器観察表

番号	器種名	出土通構／層位	最大長	最大幅	最大厚	重さ	材質	遺存度	備考
1	刀子	W-1 覆土	(16.8)	2.7	0.7	33.8	鉄	2/3	W-1-12
2	刀子	W-1 覆土	(15.8)	1.8	0.3	15.0	鉄	2/3	W-1-6
3	棒状鉄製品	W-1 上層	(11.9)	1.3	1.1	25.6	鉄	不明	軸部断面0.3×0.4の長方 形。
4	釘	W-1 上層	(8.7)	1.0	1.0	17.4	鉄	ほぼ完形	W-1 上層
5	鉄斧	W-2 覆土	(5.6)	5.2	1.6	66.5	鉄	1/3	W-2 覆土一括

注：①位相による出土物を採集。床面と表面から出土したものを床土覆土。それより上層のものを覆土とした。なお、出土状態から当該通構に帰属すると判断できるものについては、床土とした。

②大きな位相であり、重い草の單はである。現存値を [] 、復元値を [] で示した。

③底土は、細粒（1mm未満）、中粒（1~3mm）、粗粒（3~5mm）とし、特徴的な蓄積が入る場合には蓄積名等を記載した。

④色調と外観で整理し、色名は一般的土色版によった。

⑤番号には、各通構に記載してある発掘時直上の遺物取り上げIDを示した。また、特記事項があれば記載した。

VI ま と め

今回の調査によって得られた所見について、以下にまとめて述べる。なお、時期区分については從来の元總社蒼海遺跡群の時期区分、Ⅰ期（～7世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀初頭～：律令期以後）に従う。

1 積穴住居について

元總社蒼海遺跡群（7）の調査では、2軒の積穴住居跡が検出された。うちH-2号住居は出土遺物が殆どなく、また調査区南壁際の検出で住居の大半が調査区外にあるため、時期・形状ともに不明である。

H-1号住居は全体形を捉えることができた。東南隅近くにカマドがあり、形状からすると9世紀後半以降と考えられる。しかし住居内出土の土器は6世紀末から8世紀の小破片のみで、住居の形状と整合性のある時期の遺物は出土していない。本遺跡北側の總社閑泉明神北II遺跡では、5世紀から10世紀までの住居が検出されており、本遺跡でも、古墳時代前期以降各時期の遺物の混入が認められる。こうした状況のもとではH-1号住居の時期は不明とせざるを得ないが、住居形状のとおり9世紀末～10世紀の可能性がある。

2 古代の大溝について

W-1号溝は、昭和58年に本遺跡東方の閑泉樋遺跡で発見され、ついで昭和61年に本遺跡東に隣接する閑泉明神北遺跡でもその延長が確認された大溝の続きである。閑泉樋遺跡の調査では、溝の覆土上層を浅間B軽石が覆っていることが確認され、国府北辺を限ると推定された大溝である。この溝が元總社蒼海遺跡群（7）の調査区まで延びていることは予想されていたが、実際調査により大溝の延長が確認でき、国府北辺の溝である蓋然性がさらに高まったと言えよう。

国府を限ると推定される遺構は、閑泉樋遺跡東方の元總社明神遺跡における昭和58年から昭和60年の調査において、5地点から南北方向同一線上の約430メートルに達する溝跡が確認され、国府東辺を限る溝跡ではないかと推定された。また昭和61年には、元總社明神遺跡の溝跡から1町西方に位置する寺田遺跡第2調査区でも、南北方向に走る大溝が検出されている。そのため国府域については方八町を東西に1町ずらしたり、東西を九町とするなど諸説がある。溝の規模・形状からすると、寺田遺跡の大溝のほうが閑泉樋遺跡の大溝に類似しているが、未だ確定的とは言えない。また、從来整然とした方形の国府域が想定されていたが、寺田遺跡の所見から東辺の溝には折れが想定されるなど、国府域の範囲や形状なども定まっていない。特に国府南辺および西辺を限る溝あるいは施設は不明で、平成11年からの元總社蒼海遺跡群にかかる発掘調査においてもそれらしい遺構は検出されていない。

また上野国府は、今回の調査区付近から國庁域が北に突出すると想定されているが、それに伴って北に延びる溝跡は、今回の調査区北側に位置する、總社閑泉明神北II遺跡および同閑泉明神北V遺跡でも確認されておらず、W-1号溝は、このまま牛池川に向かって西に延びるものと考えられる。

W-1号溝には、雨水等が一時的に流れた痕跡はあるにしても、用水路のような流水の痕跡は認められていなし。西方の牛池川に繋がっていたとしても、その水を取り入れるのではなく、むしろ排水の機能があったと考えられる。また覆土中に硬化面等の通路利用の痕跡もなく、純粹に土地を区画するための溝であったと考えられる。

さて、元總社蒼海遺跡群（7）W-1号溝が国府北辺を限る溝と仮定した場合、その構築時期は国府造営に開

Tab. 2 元總社蒼海遺跡群(7) 穴式住居跡計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	規模 (m)		埋現高 (cm)	面積 (m ²)	カマド位置	主な出土遺物		
			東西	南北				土器類	須恵器	その他
H-1	X276・277, Y149・150	N-80°-E	3.66	3.25	21.0	11.54	東壁南寄り	环	蓋	環
H-2	X276・277, Y150・151	N-71°-E	3.00	1.16	22.5	1.82			耳栓	

Tab. 3 元總社蒼海遺跡群(7) 住居カマド計測表

遺構名	主軸方向	全长 (cm)	最大幅 (cm)	埋道溝長 (cm)	埋道幅 (cm)	燃焼部幅 (cm)	焚き口部幅 (cm)	埋道部立上り角 (°)	構築材	
									柱	板
H-1	N-88°-E	106	66	—	—	44	42	—	粘土	凝灰質砂岩

Tab. 4 元總社蒼海遺跡群(7) 溝跡計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	長さ (m)	規模 (m)		深さ (cm)	断面形
				上幅	下幅		
W-1	X270・278, Y147・149	N-86°-E	30.60	7.60	4.54	206.0	連台形
W-2	X270・278, Y145・146	N-87°-E	31.96	6.89	2.76	150.0	連台形
W-3	X271・277, Y149・151	N-62°-E	22.40	2.18	1.38	53.5	連台形
W-4	X274・275, Y149・151	N-189°-E	5.70	1.56	1.34	47.5	連台形
W-5	X275・276, Y149・150	北側 N-159°-E 南側 N-247°-E	8.00	0.60	0.35	21.5	U字形
W-6	X275・276, Y147・148	N-246°-E	7.10	0.90	0.80	59.5	U字形

Tab. 5 元總社蒼海遺跡群(7) 土坑計測表

遺構名	位置 グリッド	主軸方向	規模 (cm)			形 状	遺物数量	出土遺物
			長軸	短軸	深さ			
D-1	X274, Y149・150	180	160	41	円形	14		
D-2	X274・275, Y150	144	136	53	円形	16		

Tab. 6 元總社蒼海遺跡群(7) 13トレンチ 出土土器觀察表

番号	種類名	出土土器 規格 / 位相	①口徑×底径 (cm)	②断面成形 (土器・須恵器)	器種の特徴・整型・調整技術			備 考
					③側面 (cm)	④側面 (cm)	⑤側面 (cm)	
1	土器窯 环	H-1 覆土	①(11.4) ② 3.5	①圓錐。②良好。	体面～口縁部：浅い丸底からゆるやかに内傾し、口縁部は直線的で、側面は内側に凹む。側面の後ろに、口縁部より後ろに、口縫隙ナメ。内部：口縫隙ナメ。体面の後ろに、相手放射痕。			H-1・4
2	土器窯 环	H-1 覆土	①(10.2) ② (3.0)	①少部分の砂を含む。 ②良好。	体面～口縁部：浅い丸底からゆるやかに内傾し、口縁部は直線的で、側面は内側に凹む。外部：側面の後ろに、口縫隙ナメ。			H-1・2
3	須恵器 直	H-1 床	①(3.6) ②(4.3)	①圓錐。②良好。	丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。			H-1・27
4	須恵器 直	H-1 床・覆土	①(3.8) ②(4.4)	①圓錐。②良好。	丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。			H-1・1
5	須恵器 直	H-1 覆土	①不明 ②(2.5)	①圓錐。 ②良好。むづびに砂を含む。	丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。丸底を有する天井部から、口縫隙が中央開き。斜面部丸底。			H-1・6
6	土器直土器 环	W-1 下解	①(13.0) ②(3.4) ③(6.6)	①砂を多く含む。 ②良好。無化粧。	体面～口縁部：体面やや内傾し、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り未削。			W-1 下解
7	須恵器 环	W-1 下解	①(20.2) ②(1.8) ③ 5.0	①砂を多く含む。 ②良好。	体面～口縁部：体面やや内傾し、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り未削。			W-1 下解
8	須恵器 环	W-1 覆土	①(15.2) ②(5.1) ③ (8.3)	①砂を多く含む。 ②やや良好。無化粧。	体面～口縁部：体面丸底をつけて縁に至り、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り未削。			W-1・3
9	須恵器 环	W-1 覆土	①(20.2) ②(3.3) ③ 5.4	①少部分の砂を含む。 ②やや良好。無化粧。 ③10YR7/1 ④1/3	体面～口縁部：体面丸底をつけて縁に至り、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り未削。			W-1・7
10	須恵器 环	W-1 上解	①(8.8) ②(1.9) ③ 5.4	①少部分の砂を含む。 ②良好。	体面～口縁部：体面丸底をつけて縁に至り、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り未削。			W-1 上解一括
11	灰陶向器 碗	W-1 中解	①不明 ②(2.5)	①圓錐。 ②良好。	体面～口縁部：体面丸底をつけて縁に至り、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り後、高めの高台を作り、口縫隙が側面に付く。			W-1 中解一括
12	須恵器 碗	W-1 覆土	①(14.0) ②(5.1) ③ (7.0)	①少部分の砂を含む。 ②やや良好。無化粧。	体面～口縁部：体面丸底をつけて縁に至り、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：回転系切り後、高台を作り、口縫隙が側面に付く。			W-1・10
13	須恵器 碗	W-1 覆土	①(14.4) ②(5.5) ③ 8.0	①圓錐。②やや良好。無化粧。 ③GYR6/6 (4/3)	体面～口縁部：体面やや内傾し、口縫隙わずかに外反する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：やや足高の高台を作り、ロクロ整型。			W-1・X-278, Y-148
14	須恵器 碗	W-1 覆土	①(22.6) ②(3.1) ③ 7.7	①圓錐。②やや良好。無化粧。 ③10YR6/4 (4/3)	丸底を有する天井部やや内傾気味。直線的に口縁に至る。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：やや足高の高台を作り、ロクロ整型。			W-1・9
15	須恵器 碗	W-1 覆土	①(2.2) ②(4.1) ③ 35.0	①少部分の砂を含む。 ②良好。無化粧。 ③10YR6/1 ④ 2/3	丸底を有する天井部やや内傾気味。直線的に口縁に至る。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：高台を作り、高台の内面：ロクロ整型。			W-1・8
16	須恵器 碗	W-1 下解	①不明 ②(8.3) ③不明	①少部分の砂を含む。 ②良好。無化粧。 ③脚部破片。	丸底を有する天井部やや内傾気味。直線的に口縁に至る。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：高台を作り、高台の内面：ロクロ整型。			W-1 下解
17	須恵器 羽輪	W-1 中解	①(19.4) ②(6.7) ③ 6.2	①少部分の砂を含む。 ②良好。無化粧。 ③脚部破片。	丸底を有する天井部やや内傾気味。直線的に口縁に至る。断面三角の小さな跡が付く。口縁の平面部は「すず」に踏み内植する。外部・内面：ロクロ整型ナメ。底部：高台を作り、高台の内面：ロクロ整型。			W-1 中解一括

わるものと推定できるが、残念ながら今回の調査では構築時期の特定はできなかった。覆土中にはH-1号住居同様に各時期の土器が混入し、量的には10世紀代の遺物が多く認められた。他の遺構との重複はD-1号土坑が覆土中に構築されているが、W-3・5号溝はW-1号溝より古いと考えられる。W-3号溝底面から出土した球胴状を呈する土師器甕がW-3号溝の時期を示す可能性があるが、口縁部のみの破片であるため時期不明瞭である。なお、W-3号溝の方向はI期律令期以前の地割りに沿っている⁽¹⁾。

また、今回の調査では大溝の側壁から、竪穴住居のカマド構築材の探査痕が検出された。探査痕は幅70cmほど長方形の単位で認められ、總社砂層上層の硬質部分（凝灰質砂岩）を切り出している。また覆土断面には、探査の際の塵土とと考えられる黄褐色土主体の堆積層が認められている。この堆積層は溝底面から20cm~40cm上位にあり、カマド構築材の探査はW-3号溝が埋没し始めた頃に行われたと推定できる。

同様の探査痕は鳥羽遺跡L・O区、大屋敷遺跡、福荷塚道東遺跡で検出されている。また元総社菅海遺跡群の元総社小見内VI遺跡A区からも検出されており、同報告書で考察されているのでここでは詳述しないが、これらの遺跡では、概ね供給先の住居の年代から探査の時期を推定している。

本遺跡の場合、W-3号溝から切り出されたカマド構築材の供給先は不明である。周辺遺跡で検出されている竪穴住居の時期は古墳時代中期から10世紀までと幅があり、供給先は特定できない。しかし、W-1号溝が国府北縁を区画する溝と仮定するなら、カマド構築材の探査の時期は、律令制が破綻し国府機能が衰退し始める頃、おそらくIII期、10世紀以降と考えられる。W-1号溝覆土中から出土した土器は10世紀以降のものが多い。また人骨、獸骨等の出土も見られ、大溝の埋没が始まった段階では、側壁からカマド構築材が切り取られたり、壊れた土器が捨てられたり、不浄の物が投げ込まれるほどに、国府を画するという本来の機能は失われていたと考えられる。

3 中世の溝跡について

W-2号溝は、W-1号溝の北に位置し、W-1号溝とほぼ平行する東西方向の溝である。覆土中には浅間B軽石が多量に含まれるため、B軽石降下以降の構築と考えられる。W-1号溝は覆土上面が浅間B軽石に覆われていたため、W-2号溝が開削された時期には既に埋没していたことが考えられる。しかし両溝がほぼ平行することから恐らく、この溝を構築した者には、この地が旧来からの土地境であるという意識が働いていたものと考えられる。

また、W-1号溝の覆土中には底面直上から表土下まで、通路利用の痕跡と考えられる硬化面が多数認められ、この溝が開削されて以降、近・現代まで通路として利用されてきたことが判る。事実、最上層の硬化面上は現在の土地境になっている。また、調査区から道路を隔てた東側は小字閑泉樋北と閑泉樋南の字界が東西に走っているが、閑泉樋遺跡でも古代の大溝に平行する東西方向の溝跡が確認されており、W-2号溝は字界に沿ってさらに東方へ延びることが予想される。

本遺跡の南には中世の八日市場城があり、東には村山城がある。W-2号溝も恐らく中世段階に、これらの城館に関連して開削されたと考えられ、村山城外郭西面の堀に接続していると推定できる⁽²⁾。牛池川の東、瀧川との間には八日市場城、村山城のほか大友館もあり、これら中世城館の縛張りはほぼ現在の字界に沿っている。ということは、古代の地割りは中世を介して、現在の字界および土地境界に反映している可能性が認められる⁽³⁾。

牛池川東岸の旧総社村や旧大友村の字界は東西、南北方向に碁盤の目状で、条理地割りが考えられる。どちらが先か判らないが、国府域に条理遺構が重なっていること、さらに中世の改変が加わり、国府解明をより複雑にしている。今後、調査の進捗を待つと共に、各段階における土地利用の詳細な分析が、国府解明にあたり必要な作業となってこよう。

〈註〉

- (1) 本津博明「第3章 歴史的環境」『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』群馬県教育委員会、側群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- (2) 山崎 一氏は、村山城外郭の西面には幅6、7mの幅跡が認められるとしている。
- (3) たとえば、元経社明神遺跡で確認された古代の溝は、村山城外郭西面の幅跡とほぼ同一線上にある。

〈引用参考文献〉

- 山崎 一 「群馬県古城址の研究 上」 群馬県文化事業振興会 1971年
- 前原 豊 「閑泉橋遺跡—立見鍛設によるマンション建設に伴う発掘調査—」『昭和57年度文化財調査報告 第13集』 前橋市教育委員会 1983年
- 前橋市教育委員会編 「元経社明神遺跡Ⅰ～Ⅱ」 前橋市教育委員会 1983～1982
- 前橋市埋蔵文化財免掘調査団編 「元経社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 1986
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「中尾」 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984年
- 坂口 一 「奈良時代の土器年」群馬県史編さん委員会編『群馬県史研究24』 1986年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分僧寺・尼寺中間地域1～8」 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986年～
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分寺」 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「鳥羽遺跡 L・M・N・O区」 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990年
- 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 「元経社明神遺跡Ⅳ」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 1990
- 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 「元経社明神遺跡Ⅲ」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 1995
- 山武考古学研究所編 「総社閑泉明神北道路」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 1999年
- 齊木一敏・近藤雅頼編 「元経社蒼海遺跡群・総社甲桶荷塚大道西道路・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲桶荷塚大道西II遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2001年
- 齊木一敏・高坂麻子編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見内IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2002年
- 高橋一彦・近藤雅頼編 「元経社蒼海遺跡群・総社甲桶荷塚大道西II遺跡・総社閑泉明神北III遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2002年
- 高橋一彦・高坂麻子編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見V遺跡・元経社小見内VI遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2003年
- 近藤雅頼・植田慎太郎編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見内VII遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2003年
- 近藤雅頼・植田慎太郎編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見内VI遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2003年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「桶荷塚東遺跡」 側群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003年
- 岩崎琢磨・高坂麻子編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見内IX遺跡・総社閑泉明神北V遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2005年
- 山武考古学研究所編 「元経社蒼海遺跡群 元経社小見内X遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2005年
- スナガ環境建設株式会社編 「元経社蒼海遺跡群(3) 元経社小見VII遺跡」 前橋市埋蔵文化財免掘調査団 2005年

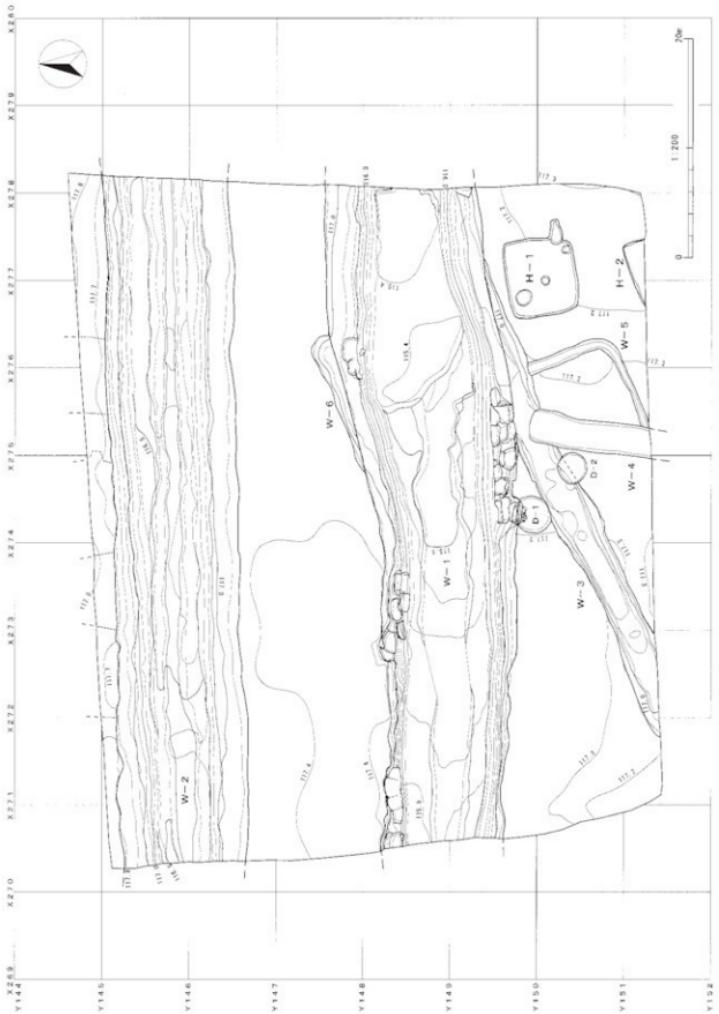


Fig. 5 元總社舊海遺跡群(7)全體圖

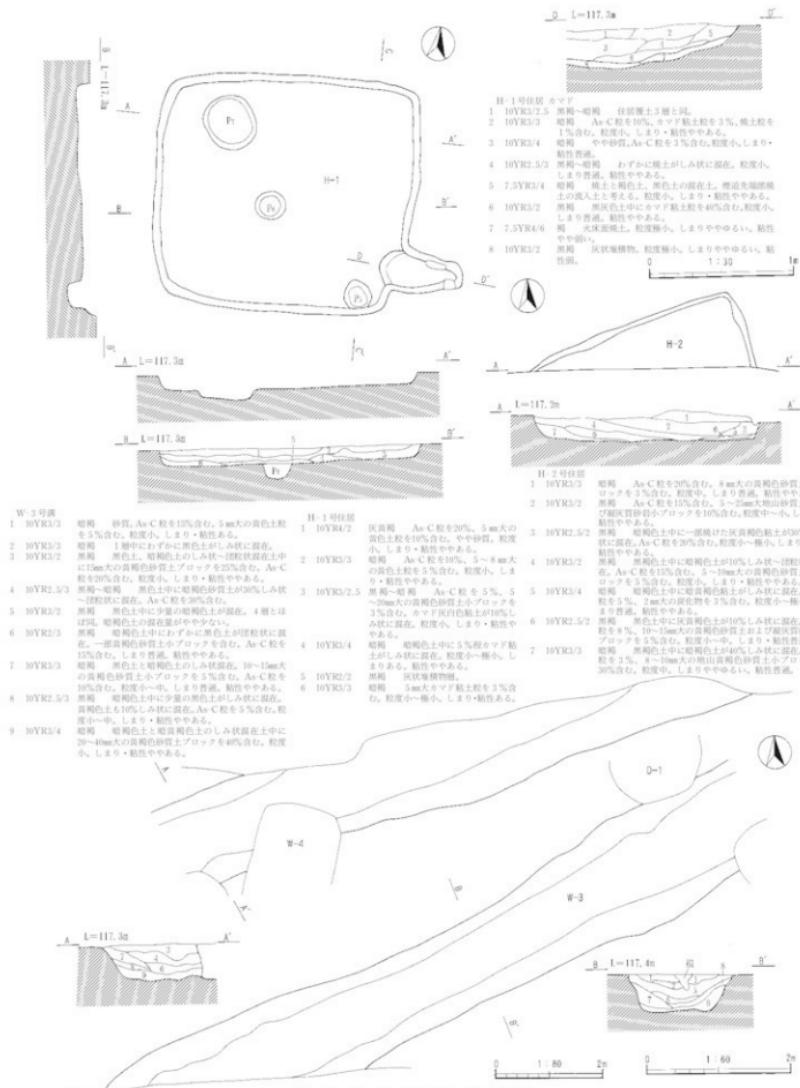


Fig. 6 H-1、2号住居・W-3号溝

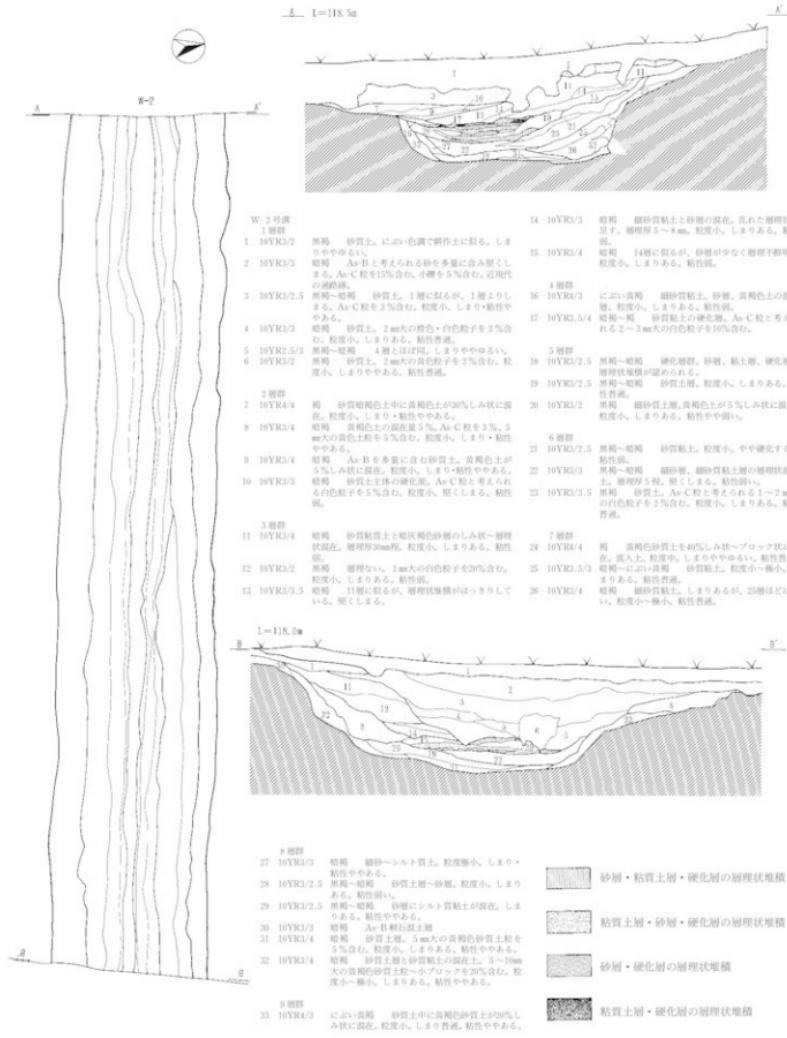


Fig. 7 W-2号洞

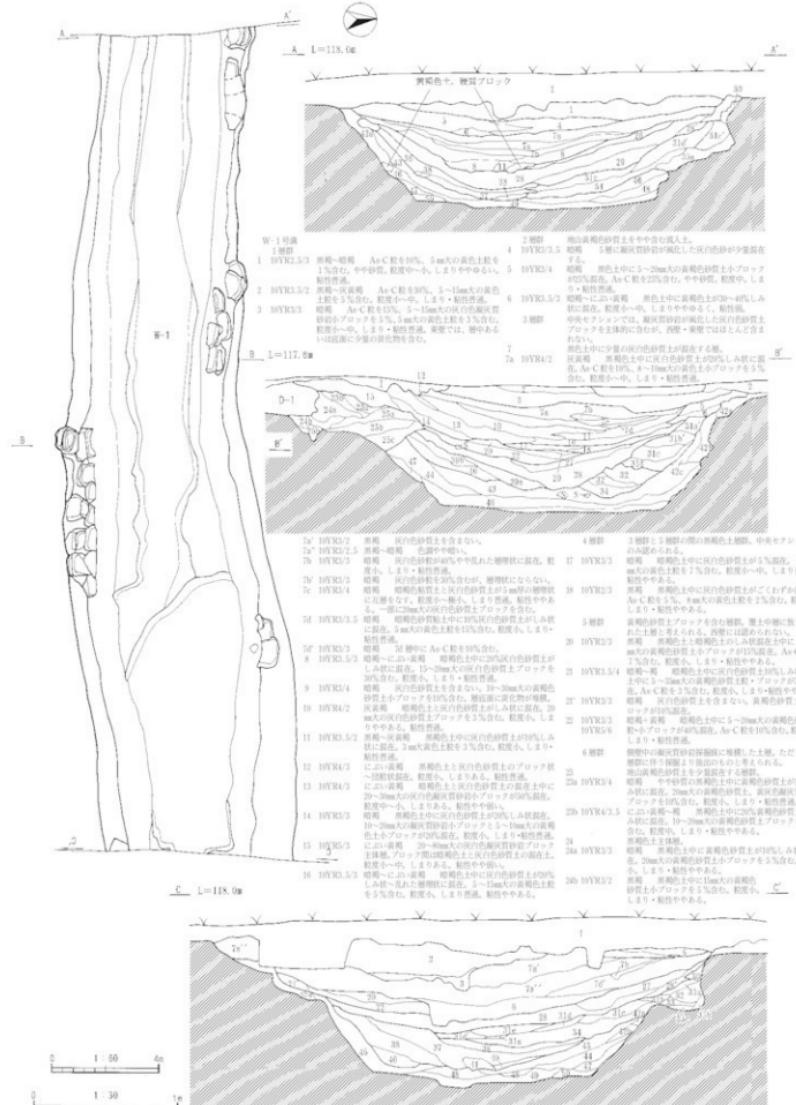


Fig. 8 W-1 号溝

25	10YR3/4	黄褐色沙質土ブロック主体層。	34	10YR4/6	黄褐色沙質土ブロック。凝灰質砂層ブロック上層部。ブロック間に10mmの黄褐色土が挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。
25a	10YR3/4.5	黄褐色沙質土ブロック主体層。約40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。	35	10YR4/4	黄褐色沙質土ブロック主体層。約40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。
25b	10YR3/4.5	に近い黒褐色一筋層。黄褐色沙質土ブロック主体層。約40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。	35a	10YR4/4	黄褐色沙質土ブロック主体層。約40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。
25c	10YR3/2	砂層。黄褐色。約10~80mmの大粒の黄褐色の沙質土ブロック主体層中に、40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。	35d	10YR5/6	黄褐色沙質土ブロック主体層。約40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。
25d	10YR3/6	砂層。黄褐色。約10~80mmの大粒の黄褐色の沙質土ブロック主体層中に、40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。	35e	10YR4/4	黄褐色沙質土ブロック主体層。約40mmの黄褐色土がブロック間に挟まれる。粒度大小混在。しまりややある。
26	10YR3/2	砂層。27mmの黄褐色沙質土を5%含む。	36	10YR3/2	9号層 砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
27	10YR2/2	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。	37	10YR2/2	砂層。As-C粒を35%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。
28	10YR2/3	砂層。As-C粒を35%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。	38	10YR2/2.5	砂層。As-C粒を10%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。
29	10YR2/3	凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。	39	10YR2/3	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
30	10YR3/4	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。	40	10YR2/2	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。
31	10YR2/2	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。	41	10YR2/3	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。
32	10YR3/2.5	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。	42	10YR4/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
33	10YR4/4	砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。粒度大小混在。しまりややある。	43	10YR2/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
34	10YR3/4	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	44	10YR2/3	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
35	10YR3/4	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	45	10YR3/2.5	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
36	10YR3/2.5	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	46	10YR4/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
37	10YR2/2	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	47	10YR4/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
38	10YR2/2	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	48	10YR2/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
39	10YR2/2	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	49	10YR4/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。
40	10YR2/2	砂層。As-C粒を3%含む。粒度小。しまりややある。	50	10YR4/2	8号層 凝灰質砂層の下層部。柱状土と見られる黄褐色砂層。As-C粒を20%。5~8mmの大粒の黄褐色の沙質土粒を含む。

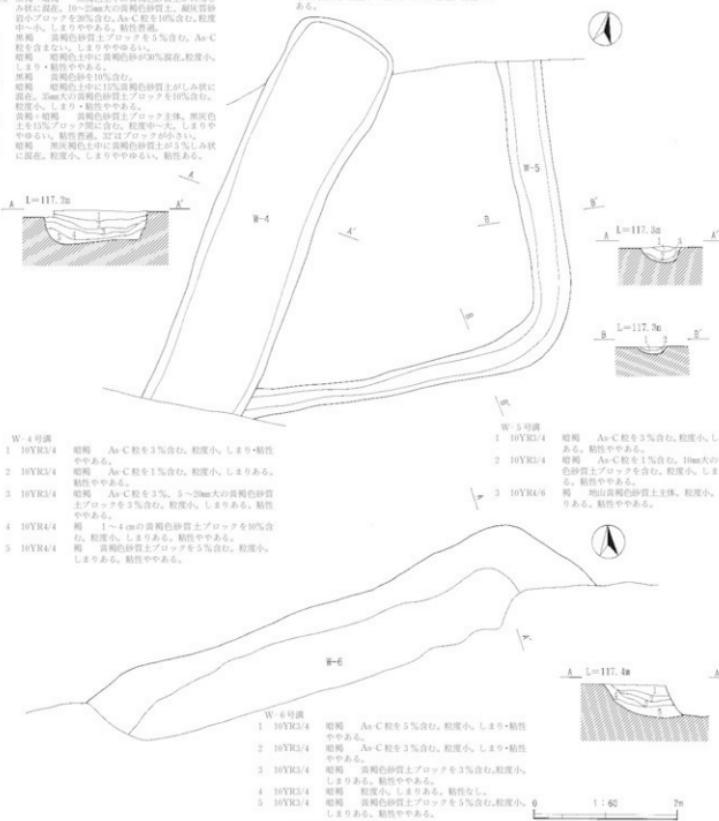
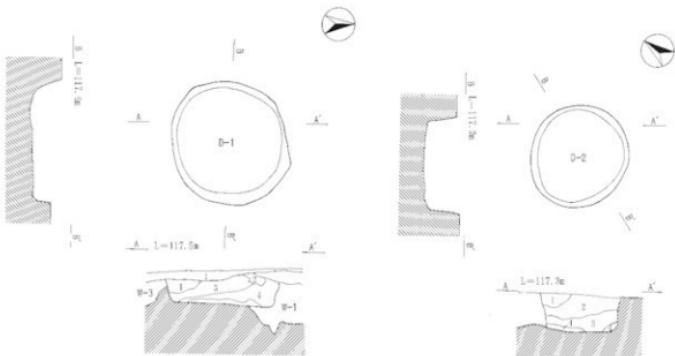


Fig. 9 W-4 ~ 6号溝



D-1 号土坑

- 1 10YR5/3.5 短開 中や砂質の暗褐色土。5mm以上の黄褐色砂質土粒を2%含む。粒度小。しまり・粘性やある。
にじい黄褐色。砂質の混合度が高い。
- 2 10YR4/3 短開 暗褐色土中に5~15mm以上の黄褐色砂質土小プロックが一部しみ伏在。やや砂質。粒度小。しまり・粘性普通。
- 3 10YR4/4 短開 10~30mm以上の黄褐色砂質土。黄灰色細粒質砂質土プロック主用。プロック間には暗褐色砂質土が夾在。粒度中。しまり・粘性やある。
- 4 10YR3/4 短開 やや砂質の暗褐色土中に5~10mm以上の黄褐色砂質土がしみ伏~小プロック状に10%混在。粒度小。しまり・粘性普通。

D-2 号土坑

- 1 10YR4/3 にじい黄褐色。暗褐色土。暗褐色土の混在中にAr-B
解石を多量に含む。カクラン層。
- 2 10YR4/2 灰褐色 10~20mm以上の砂質質褐色土小プロック。5mm
以上の黄褐色砂質土粒を30%含む。粒度中。しまり普通。
粘性やある。
- 3 10YR3/4 短開 2層中に少量黑色土が混在。粒度小。しまりや
ある。粘性やある。黄褐色砂質土粒を40%含む。
- 4 10YR4/4 短開 3層と黄褐色砂質土のしみ伏~プロック状混在。

0 1:50 28

Fig.10 D-1、2号土坑

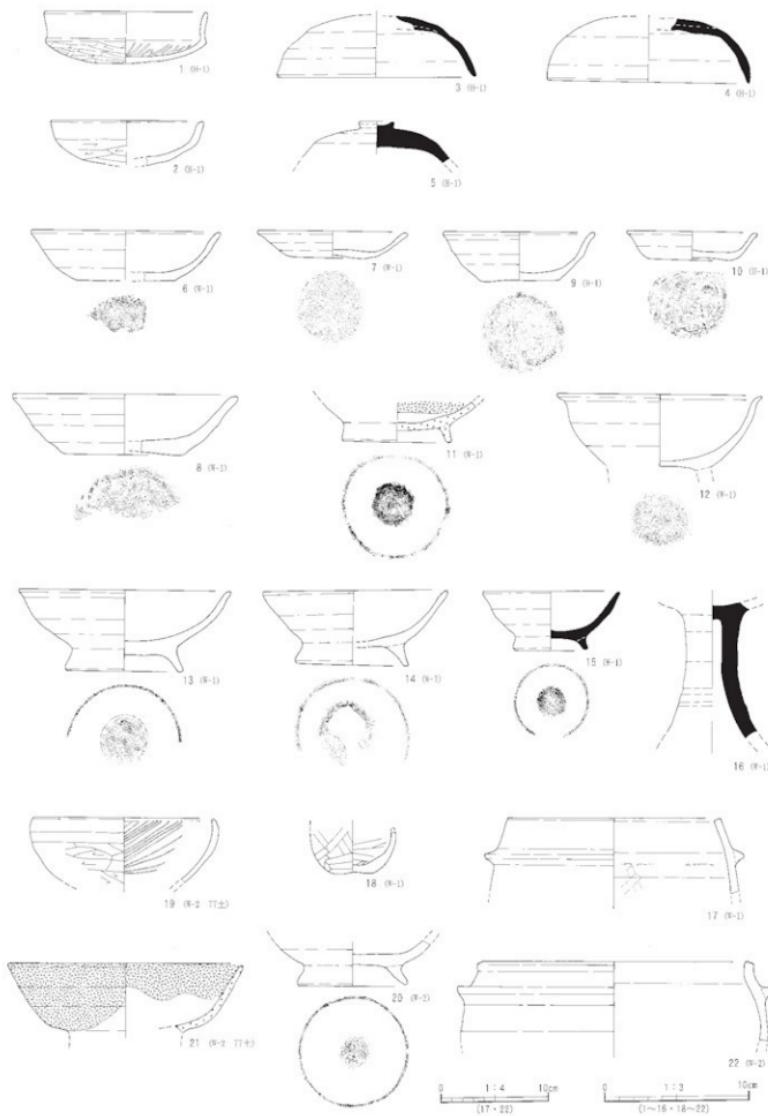


Fig.11 H-1号住居・W-1、2号溝出土の土器



Fig.12 W-3、4号溝出土の土器 および調査区出土の縄文土器・土製品・石器・鉄器



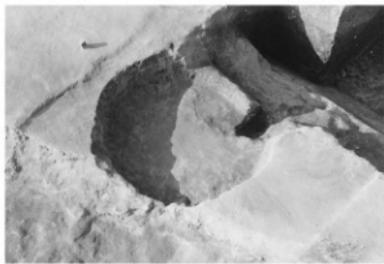
調査区全景（東から）



H-1号住居全景（西から）



H-2号住居全景（北から）



D-1号土坑全景（南東から）



D-2号土坑全景（西から）



W-1号溝全景（東から）



W-1号溝全景（西から）



W-1号溝カマド構築材探査痕



W-1号溝土層断面（東から）



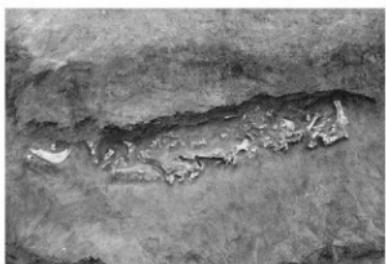
W-1号溝中央土層断面（東から）



W-2号溝全景 (西から)



W-2号溝全景 (東から)



W-2号溝覆土中骸骨等出土状況 (北から)



W-2号溝土層断面 (東から)



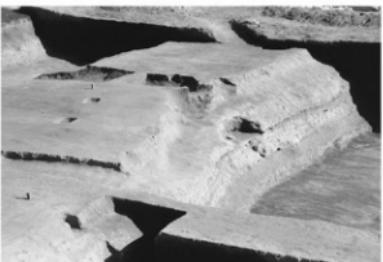
W-3号溝全景 (東から)



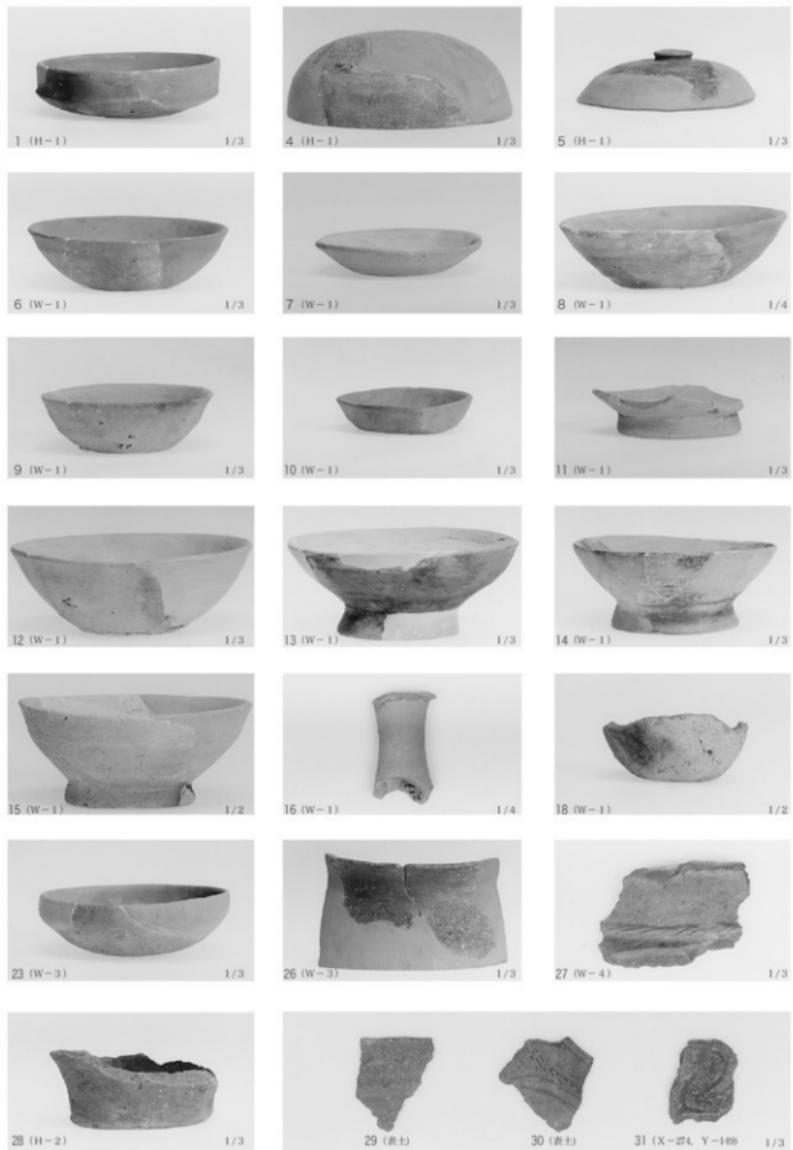
W-4号溝全景 (東から)

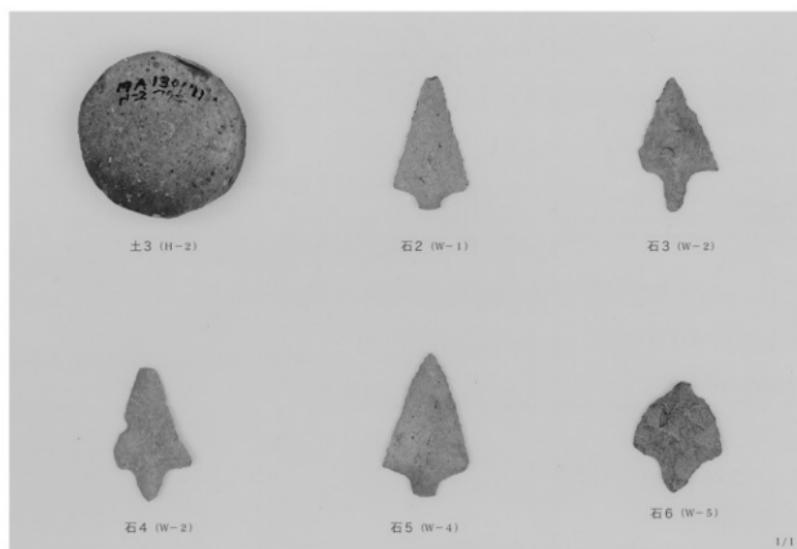
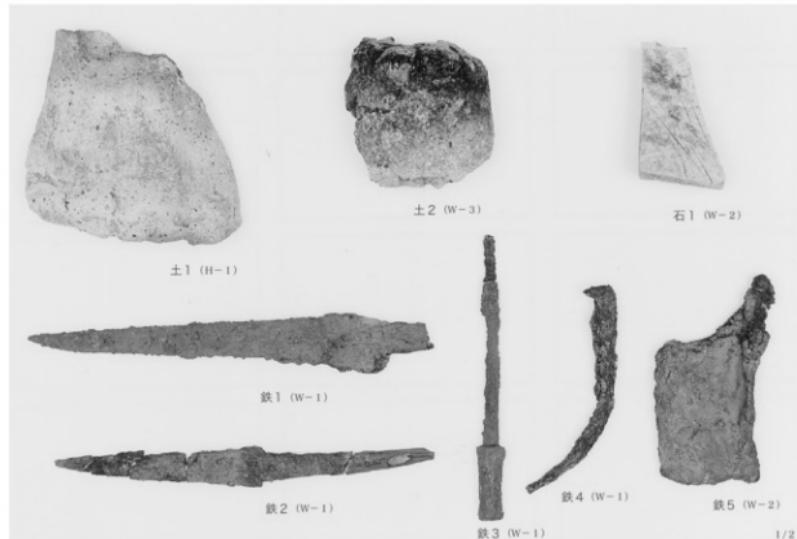


W-4・5号溝全景 (南西から)



W-6号溝全景 (南西から)





抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン7
書名	元総社蒼海遺跡群（7）
副書名	前橋都市元総社公民館新築移転工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	梅澤 克典・井上 登
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2006年3月17日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡 群（7）	前橋市總社町 3589番地ほか	10201	17A130 -13	36°23'30"	139°01'14"	20051108 ～ 20051219	約797m ²	前橋市元総社 公民館新築移 転工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡 群（7）	集落跡	奈良・平安 中世以降	堅穴住居跡2軒、溝跡5条、 土坑2基 溝跡7条 他	土師器、須恵器、鉄器、 石製品、瓦等	国府北辺の区画 溝か。
					なし

元総社蒼海遺跡群（7）

2006年2月24日 印刷
2006年3月3日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 朝日印刷工業株式会社